

町のウワサ Q&A 『噂の真相(牛の胃に消えた牧草ロール)』

Q-■■ 『町づくりサイト』スタッフから出た『町のウワサ』の一つがこれ。
スタッフの口からも『ウワサには聞いていたが、まさか本人には聞きづらいでしょ…』ということでしたが思い切って当時の牧場長さんに聞いてみました。

Q-■■ 『育成牧場で、過去に 1,000 個もの牧草ロールが消えた…。』
『牧場の職員が、悪事を働いたのでは？…。』このようなウワサがありますが？

A-このウワサの件は、私の耳にも届いていました。有り得ないことなので最初は聞き流していました。しかし、根拠の無い嘘話をいまだに吹聴している人がいると聞き、状況によっては名誉棄損罪も成立するようなので弁護士さんと相談をしているところです。

(当時の牧場長さん)

A-消えた牧草ロールの真相 (当時の牧場長さん)

町内の公共牧場で、収穫した牧草ロールが消えたとの噂があるそうです。その数、約 1,000 個。1 個 5,000 円として 500 万円相当ものロールが、どこに、なぜ。担当者が横流ししたのではないかとの噂が町内に広がりました。町による執拗な内部調査と輸送業者への聞き取り調査が行われたそうです。担当者が使用していた廃棄済みのパソコンのハードディスクまでも専門業者に復元してもらったそうですが、結局、証拠は何も見つからなかったそうです。

ではなぜ大量の牧草ロールが消えたのか。答えは単純に「牛に食べさせた」からでした。牧草畑では、ロールベアラーのカウンターによって、何個出来たかが確認できます。そして、時間が経過してから、積み上げてあったロールを数えたところ、その数が合っていないと勘違いした職員が外部に情報を漏らしたそうです。そもそも、その公共牧場では採草作業期間中は、収穫してラッピングする前のロールを生の状態に放牧していない牛に与えていました。1 日に 10~20 個を採草期間中 (50 日前後) 与えるので、年によってはその数が 1,000 個に達することもあるのです。

ラッピングに要する経費は、約 600 円/個ですから、1,000 個を生で与えると 60 万円の経費が節約できたこととなります。経営上の考えでは、経費の節約をしたこととなります。

あの大きな牧草ロールを 1,000 個も人目につかないように横流しする…。

多くの人が働いている環境を考えると、単純に考えてもあり得ないことです。

A-これからの標茶町…、実る町にするのか？ 枯れる町にするのか？ (当時の牧場長さん)

少々説明が長くなりますが、私の実家が酪農家であること、役場畜産係、標茶町育成牧場、民間預託牧場などでの経験が、私の「町づくり」の基礎であり、強みとなっています。酪農の発展だけでなく、酪農畜産の持つ懐の深さを活かし、高齢者や障がい者が活躍する場を造る「農福連携」も実現したいと考えています。

酪農家の悩みの種である哺乳期と育成前期の飼養管理についても研究。酪農家の特に奥様が担当することが多い「子牛の哺育」についての悩みを聞き、牛づくりをサポートする

事業を主宰。

標茶町は、広大な草地、豊かな森林、溢れ出る水、悠久の時を刻む湿原という財産があります。地域に豊かな財産があることや基幹産業が酪農であること、自分の今までの経験を生まれ育った標茶のために生かせるのではないかという想いがありました。そのような気持ちから、標茶地域にリアルに役立つ情報を提供するために立ち上げた事業です。

ぜひ皆さん、日頃の酪農上の相談があれば利用してください。100%の苦労も必要ですが、1%の新しい情報、知らなかった情報を得ることにより、劇的に作業効率が良くなることも起きています。海藻で牛のゲップを減らすべく、漁業者やブルーカーボン事業者らと共同研究もしています。研究のために羊や山羊も飼っています。

A-創意工夫を仕事に生かす (当時の牧場長さん)

標茶に生まれ、幼い頃から実家の酪農を手伝ってきました。貧しいながらも実直な両親とともに「今ある物を生かす」経営に触れてきました。そこには、創意と工夫が溢れていました。

今の子供たちにも、誰かのために役に立つ「創意工夫」の喜びを知って欲しいと思い、釧路少年少女発明クラブの会長を二年間務めました。

標茶町育成牧場時代は、発想の転換や現場での創意工夫によって黒字化できると信じ、職員と共に汗を流しました。過去に、1年間で最大1億円の赤字を出していた牧場が、みるみるうちに黒字になって行き、利用者からも高く評価されるようになりました。参考までに現在は、年間約5,000万円の赤字だそうです。

本当に職員の不正があったとしたら、赤字が黒字になることなどないでしょう。

牧草ロールが消えた・・・あまりにばかばかしい勘違いと、悪意のある噂は、当時の職員

の人生まで狂わせる可能性もあり、牧場の黒字化に一生懸命協力した多くの人の気持ちを傷つけています。今も、まことしやかに噂を広めている人がいるそうです。それは悪意のほかには何か特別な意図があるのではないのでしょうか。

無実の人間を泥棒よばわりすることを放置できず、2019年1月、弁護士さんから注意文書を出したことで一時は静かになりました。

しかし、今、また、この時期に、『育成牧場から牧草ロールが消えた・・・らしい』という言い方で噂を流しているようです。私一人の問題ではなく当時の職員の皆も疑われることなので、名誉棄損として弁護士さんに相談しているところです。

もし、またそのようなウワサを耳にしたら、このように聞いてみてください。

「1個 300kg以上の大きな牧草ロール、1,000個も牧場から持ち出すことが可能なのですか？」

「ハッキリした証拠が何かあったのですか？」

「どうして、今まで何年間も訴えないでいるのですか？」…と

Q-■■ **当時の牧場長さん**は、何年から育成牧場でお仕事されていたのですか？

A- 平成19年からだったと思います。牧場長は24年から務めさせて頂きました。

前任の牧場長さんの時代から環境を整えて頂いたことで順調に牛が増えたことや、当時の時代環境も追い風となり黒字になりました。

Q-■■ ありがとうございます。予想以上の詳しい説明が聞けました。

「生い立ち」から話がはじまり、人生において「**いまが頑張りどころ**」ということですね。

新事業を立ち上げた「**考え方**」の部分までお話を頂きました。

また、違う疑問など出た時にはよろしくお願ひ致します。

A- こちらこそ、よろしくお願ひ致します。

Q-■■ 耳触りのいいウワサだけが広まること、根拠の無いウワサが広まることは不幸な人を増やしかねない。そんな思いから、『町のウワサ』を取材...の企画が始まりました。これからも、皆さんの知りたい『町のウワサ』を掲載していきます。